

地域社会への貢献

CONTENTS

| | |
|-------------------|-----|
| 地域支援(コミュニティ活動) | P42 |
| Brilliaのコミュニティづくり | P44 |
| 街づくり | P45 |
| 教育・芸術支援 | P47 |
| その他の社会貢献活動 | P49 |

地域支援 (コミュニティ活動)

東京建物グループでは、不動産を保有・管理している八重洲・日本橋・京橋などの地域において、街の清掃や地域活性化のためのイベントの運営など、さまざまなコミュニティ活動を通じて地域の価値向上に取り組んでいます。

東京建物が取り組むまちづくり活動について本レポートで特集記事を掲載しています。あわせてご覧ください。→P8

クリーン活動の実施

東京建物グループでは、東京建物本社ビルの位置する八重洲・日本橋・京橋地域をはじめとする複数の地域において、街の美化のため、業務開始前の時間などを活用し、清掃活動を定期的に行っています。その活動が評価され、日本橋清掃事業協力会から感謝状をいただきました。

また、日本橋「橋洗い」イベントには2013年から連続して参加。中央通りの歩道上の花壇の管理には、NPO法人はな街道の事務局の一員として参加・支援しています。

今後も地域コミュニティの一員として街の美化に貢献したいと考えています。



朝の清掃活動

日本三大祭り「山王祭」への参加

東京建物本社所在地域の大切な行事であり、天下祭と謳われ、また大阪天神祭や京都祇園祭とともに日本三大祭りにも数えられる「山王祭」に、東京建物グループは積極的に参加して伝統文化の継承に努めています。神輿12基が八重洲・日本橋・京橋地域などを練り歩く下町連合渡御には、多くのグループ従業員が参加し、神輿担ぎをはじめ地元町内会の方々と一緒にお祭りを盛り上げています。



山王祭

| | | | | |
|----------|----------|---------|------------|----------|
| 目次 | 社長ごあいさつ | 特集 | 安全・安心の取り組み | 環境への取り組み |
| 社会変化への対応 | 地域社会への貢献 | 人材資源の活用 | 管理体制の整備 | |

「中野セントラルパーク」でのにぎわい創出

中野セントラルパークでは、隣接大学や行政と共に一体的に整備した約3haもの緑豊かなオープンスペース（公共空地等）を、シームレスにつながる中野四季の森公園とともに、オフィスワーカー、学生、地元住民や産業の交流の場として活用しています。

街や学生が持つ既存の文化や新たな活力等を取り込みながら、年間を通じてフリーマーケットやワークショップ等の各種イベントを開催するとともに、積極的にコミュニティづくりを行うことで、多様な人々が集い、にぎわいあふれる空間の創出ならびに人、大学、街および企業等が有機的に交じり合い生み出される知識の創造や継続的なエリアの活性化につなげています。2016年も多数のイベントが開催され、総計約28万人が中野セントラルパークを訪れました。このオープンスペースを効果的に利用してにぎわいをつくる取り組みは、2014年に「グッドデザイン賞地域づくり、コミュニティづくり部門」を受賞しました。



ナカノ・キッズフェス2016 子どもがカフェの店員を体験できるアンテナキッズカフェなど子どもの情操教育を意識した催しがある

| | | | | |
|----------|----------|---------|-----------|---------|
| 目次 | 社長ごあいさつ | 特集 | 安全・安心の取組み | 環境への取組み |
| 社会変化への対応 | 地域社会への貢献 | 人材資源の活用 | 管理体制の整備 | |

Brilliaのコミュニティづくり

マンションの情報を発信する管理組合との共同運営サイト

東京建物グループでは、管理組合と共同運営のWebサイトを制作し、マンションの概要や歴史、将来に向けての取組み、住民組織、共用施設、イベント等を紹介しています。住民の声を届けるブログも開設しています。

「Brillia Mare 有明」「Brillia 有明 Sky Tower」「東建座間ハイツ」のWebサイトをすでに公開しており、今後も拡大予定です。

マンションの情報を内外に発信することは、資産価値の向上やコミュニティの活性化、環境維持につながることを期待されます。



「Brillia Mare 有明」公式Webサイト <http://bma33.com/>

自然を中心にしたコミュニティづくり「Brillia 湘南本鵠沼」

「Brillia 湘南本鵠沼」は、藤沢市の長久保公園都市緑化植物園に隣接し古くからある雑木林に囲まれた風致地区内に建つ定期借地権付分譲マンションです。これまでボーイスカウトの訓練場として地域コミュニティの場としての役割を担ってきた歴史を踏まえて、土地所有者様との協議により既存樹木を生かしたコミュニティパークを設けました。敷地面積の約15%を占める約500m²のコミュニティパークは、自然とのふれあいとコミュニティ形成を目的としており、地域のボーイスカウトの活動場所として公開しています。また、かまどベンチや災害時に利用可能なトイレなどを設置しており、地域の防災拠点としての機能も担っています。今後、防災訓練などのイベントを通じてコミュニティ形成が進んでいくことが期待されます。



コミュニティパーク

管理組合へのイベント提案を通じたコミュニティづくり

良好なコミュニティはマンションの維持管理に良い影響を及ぼし、資産価値の向上にもつながります。東京建物グループは、マンションの管理組合に対してコミュニティ醸成のためのイベント開催を提案し、運営のお手伝いをしています。入居前の交流イベントから、入居後の季節に応じたコミュニティイベント（クリスマス、七夕など）、植栽づくり、クラブ活動の運営補助など、コミュニティ醸成につながる活動を管理組合と協力して行っています。



共有の菜園スペースを利用した菜園教室

| | | | | |
|----------|----------|---------|-----------|---------|
| 目次 | 社長ごあいさつ | 特集 | 安全・安心の取組み | 環境への取組み |
| 社会変化への対応 | 地域社会への貢献 | 人材資源の活用 | 管理体制の整備 | |

街づくり

「豊島区旧庁舎跡地活用事業」における取組み

東京建物は、株式会社サンケイビル、鹿島建設株式会社と共同で東京都豊島区主催の「豊島区旧庁舎地活用事業」の優先交渉権者に選定され、豊島区との間で基本協定を締結、2016年12月に着工しました。本件は、2015年5月の豊島区新庁舎移転に伴い、旧庁舎跡地（公会堂の敷地を含む）を新たにぎわい拠点として整備するもので、豊島区新庁舎と超高層マンションが一体となった「区本庁舎一体再開発プロジェクト（新庁舎およびBrillia Tower 池袋の一体再開発）」にも参画した東京建物が、旧庁舎跡地も手掛けることとなります。

この計画では、旧庁舎エリアに「8つの劇場」を含む国際的な“文化にぎわい拠点”を生み出すもので、豊島区が進める「国際アート・カルチャー都市」への戦略に沿ったものです。区が所有しプロユースから区民利用まで多様なニーズに応える新ホールの整備に加え、大規模オフィスを整備することにより、池袋駅周辺の新たにぎわいを創出し、池袋の副都心機能を高めることで、企業・人の新たな集積を創り出します。2020年のグランドオープンを目指しています。



完成イメージ

「東京駅前八重洲一丁目東地区市街地再開発事業」における取組み

東京建物は、東京駅前八重洲一丁目東地区市街地再開発準備組合の一員として、他の権利者の方々と共に「東京駅前八重洲一丁目東地区市街地再開発事業」を推進しています。

本事業は、東京圏の国家戦略特別区域の特定事業にも指定され、国際都市東京の陸の玄関口として、八重洲エリアのみならず東京全体のさらなるにぎわい創出と国際競争力の向上に貢献することが期待されています。

東京駅八重洲口駅前には、江戸時代から商業・文化の中心地としてにぎわい、現在でも日本橋や銀座にも隣接し商業・伝統・文化の集積地であるとともに、東京駅は国際空港や地方都市を結ぶ大規模ターミナル駅となっています。

計画地には、大規模バスターミナルや回遊性の高い歩行者ネットワークの整備をすることで交通結節機能のさらなる強化を図るとともに、国際交流機能やビジネスの国際的中枢機能、地域の業務継続（BCP）機能と高い防災対応力を兼ね備えた延床面積約24万m²の大規模複合ビルを整備することにより、国際都市東京の競争力の向上に貢献します。



完成イメージ

| | | | | |
|----------|----------|---------|-----------|---------|
| 目次 | 社長ごあいさつ | 特集 | 安全・安心の取組み | 環境への取組み |
| 社会変化への対応 | 地域社会への貢献 | 人材資源の活用 | 管理体制の整備 | |

駅前複合再開発「Brillia Towers 目黒」の取組み

東京建物は、目黒駅前地区市街地再開発組合の一員として、東京都の「先行まちづくりプロジェクト」に指定されている「目黒駅前地区第一種市街地再開発事業」を推進し、JR山手線目黒駅の駅前約2.3haを再開発しています。

都バス営業所の跡地およびその隣接地を一体で開発するこのプロジェクトは、広い敷地に住宅2棟とオフィス1棟、低層には商業施設、周囲に緑地を整備することで、駅前のにぎわいと緑豊かで潤いのある環境を両立させます。緑地は「森の広場」と名付け、緩やかな起伏にあわせたウッドテラスと芝生スペースで緑とふれあえる空間をつくります。また、商業施設には「文化の広場」と名付けた駅前広場を併設し、店舗を連続的に配置することでにぎわいを創出します。

このプロジェクトにおいて、東京建物は「Brillia Towers 目黒」の企画・開発を全面的に支援し、一般財団法人首都圏不燃建築公社と共に分譲部分の販売の役割を担っており、2017年12月の完成を目指して、事業を推進しています。



「Brillia Towers 目黒」全景完成イメージ

| | | | | |
|----------|----------|---------|-----------|---------|
| 目次 | 社長ごあいさつ | 特集 | 安全・安心の取組み | 環境への取組み |
| 社会変化への対応 | 地域社会への貢献 | 人材資源の活用 | 管理体制の整備 | |

教育・芸術支援

「東京スクエアガーデン」でエコなまちづくりを学び考える「エコまち塾」を開催

東京建物が保有・管理する東京スクエアガーデンの6階には、「京橋環境ステーション」という都市の低炭素化をすすめるための拠点施設があります。

この京橋環境ステーションで「エコまち塾」という無料で受講できる連続セミナーが開催されています。市民や企業などさまざまな立場の人がエコなまちづくりを学び考える塾として、塾長に早稲田大学特命教授 伊藤滋先生を迎え、他にも建築や都市開発、環境、経済などさまざまな分野の専門家を招き、1期1年間にわたり講演やパネルディスカッションを行っています。

2014年度よりスタートし、2016年度も塾生約50名と各回ごとに参加する一般の受講者とともに4回のセッションとまとめのシンポジウムを開催しました。東京建物はこの塾の主催団体である一般社団法人エコまちフォーラムの法人会員として企画運営を行っています。

[エコまち塾について詳しくはこちら](http://ecomachi-forum.or.jp/)
<http://ecomachi-forum.or.jp/>

●実施したセッションの概要(第3期)

| | | |
|------------------------|-------------|------------------------------------|
| セッション1 (2016/10/17) | テーマ | 英国都市の都市環境政策 |
| | 講師 | 村木美貴 (千葉大学 教授) |
| | モデレーター | 村上公哉 (芝浦工業大学 教授) |
| セッション2 (2016/11/4) | テーマ | C40の取り組み |
| | 講師 | 西田裕子 (東京都環境局) |
| | モデレーター | 小澤一郎 (公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター 顧問) |
| セッション3 (2016/12/12) | テーマ | ポートランドで始まったEco Districtsのアプローチについて |
| | 講師 | 村山顕人 (東京大学 准教授) |
| | モデレーター | 小澤一郎 |
| セッション4 (2017/1/17) | テーマ | 都市ソリューション輸出 |
| | 講師 | 野田由美子 (PwC アドバイザリー合同会社 パートナー) |
| | モデレーター | 高口洋人 (早稲田大学 教授) |
| シンポジウム (2017/2/27) | テーマ | 環境都市と観光都市 |
| | 基調講演 | 伊藤滋 (早稲田大学 特命教授) |
| | 特別講演 | 尾島俊雄 (早稲田大学 名誉教授) |
| | パネルディスカッション | 伊藤滋、尾島俊雄、小澤一郎 |

受講者の声：エコまち塾で得たネットワークと知見が役立っています

平日の夜に開かれるエコまち塾には、会社帰りに参加できることもあって、第1期から第3期まですべて受講しました。第1期はエコなまちづくりを推進している著名な講師の方々の講演会、第2期はディスカッション形式の講演会に塾生も参加、第3期は海外の都市での事例について、非常に有意義で興味深いお話が聞けました。

私は隣接地区で京橋スマートコミュニティ協議会を設立して活動していますが、エコまち塾で学んだことを参考としたり、講師の先生に協議会の検討委員として参加していただいたりもしています。次第に顔なじみも増え、一部の方々とはOB会有志と称して時々「ノミネーション」を楽しみ、情報交換をしています。今後もエコまち塾で得られたネットワークと知見を、仕事に役立てていきたいと思っています。



清水建設株式会社 執行役員
ecoBCP 事業推進室 室長
那須原 和良 氏

| | | | | |
|----------|----------|---------|------------|----------|
| 目次 | 社長ごあいさつ | 特集 | 安全・安心の取り組み | 環境への取り組み |
| 社会変化への対応 | 地域社会への貢献 | 人材資源の活用 | 管理体制の整備 | |

映像文化の発展を支援する賞「Brillia NEW LUXURY アワード」

東京建物は、2016年6月に行われたアジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2016」において、映像文化の発展支援を目的に、「Brillia NEW LUXURY アワード」を設定しました。

本取り組みでは、上記映画祭に応募された作品より、「Brillia」のブランドコンセプト【NEW LUXURY】の世界観に合致するショートフィルム2作品を選定し、アワードとして表彰。うち、1受賞作品の監督である古波津 陽（こはつ よう）氏に「Brillia」のPR映像制作権を贈りました。

アワードに輝いた2つのショートフィルムは、2016年7月～2017年6月末まで、「Brillia」のWebサイト内で公開中です。

Brillia Topics

<http://brillia.com/brillia/topics/>



「Brillia NEW LUXURY アワード」表彰式

芸術（アート）の視点から多世代の交流を促す

東京建物シニアライフサポートは、子どもから高齢者まで多様な世代が交流することがコミュニティの活力につながると考え、多世代交流事業を行っています。

コーシャハイム千歳烏山のコミュニティカフェ「ななつのこ」は、千歳烏山駅前の団地再生によって生まれた多世代交流施設です。カフェやレンタルスペース、ギャラリー、シェアライブラリーを備え、ニットカフェや読書会、親子ディナー、ストレッチクラスなど食・生活・文化的なイベントを行い、子育て世代や高齢者などの地域の人々の居場所づくりに取り組んでいます。



コミュニティカフェ「ななつのこ」

| | | | | |
|----------|----------|---------|-----------|---------|
| 目次 | 社長ごあいさつ | 特集 | 安全・安心の取組み | 環境への取組み |
| 社会変化への対応 | 地域社会への貢献 | 人材資源の活用 | 管理体制の整備 | |

その他の社会貢献活動

障がい者スポーツの支援

東京建物は、社会貢献活動の一環として、2015年8月から公益社団法人日本障がい者スポーツ協会（JPSA）のオフィシャルパートナーを務めています。

障がい者スポーツの理念である「活力ある共生社会の創造」実現の一助となるべく、障がい者スポーツの普及啓発活動などを通じて、障がい者スポーツを積極的に応援していきます。

2016年はグループ内に向けて競技や大会情報を発信して観戦を促しました。約40名の社員が大会観戦に訪れ、応援活動を行うことで、障がい者スポーツへの認識を新たにしました。

また2016年12月にオープンした、競技用義足開発ラボラトリーが併設され障がい者も健常者も一緒になってトレーニングが行える陸上競技施設「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」のネームミングライツを取得しました。今後も障がい者スポーツの普及拡大に努めていきます。



社員による応援



日本障がい者スポーツ協会オフィシャルパートナー



「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」

東日本大震災からの復興支援としての「田んぼのパートナー制度」参加

「田んぼのパートナー制度」は福島県天栄村のブランド米「天栄米」をサポートする制度です。東日本大震災の際に天栄米が福島第一原子力発電所の事故の風評被害に晒されたことを受け、頑張る農家と応援したい消費者を結ぶという想いで企画されました。出資金は米の栽培研究などに利用され、出資者には収穫したお米が返礼されます。東京建物グループは、2016年まで保有していた「羽鳥湖高原レジーナの森」が天栄村に所在していた縁でこの制度への参加を決め、会社と社員有志約100名が参加しています。

社員とその家族が地元農家の方々と交流しながら、春の田植え、夏の草とり、秋の稲刈りなどの作業も体験し、天栄村に対する理解を深め、会社と個人が一体となって天栄村から福島復興を応援しています。



稲刈りの参加者たち

| | | | | |
|----------|----------|---------|-----------|---------|
| 目次 | 社長ごあいさつ | 特集 | 安全・安心の取組み | 環境への取組み |
| 社会変化への対応 | 地域社会への貢献 | 人材資源の活用 | 管理体制の整備 | |

平成28年熊本地震からの復興支援

東京建物グループは、平成28年熊本地震による甚大な被害からの復興支援のため、義援金1千万円を、日本赤十字社を通じて寄付しました。また、グループ役職員からの義援金とも合計して総額1,284万9,412円を寄付しました。

亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

難病患者と家族の支援

東京建物が所有する賃貸マンション「アパートメンツタワー勝どき」は子育て支援と地域の共生をテーマとしたマンションであり、建物内に認定こども園やファミリーハウス、小児科クリニック、子育て世代向け住宅などがあります。認定NPO法人*ファミリーハウスが運営する「ファミリーハウス」とは、小児がん等の難病治療のために遠方から大都市の病院に来ている子どもと介護する家族に、滞在施設として使っていただく「もうひとつの我が家」のことで。東京建物はこの活動に共感し、国立がん研究センター中央病院と聖路加国際病院に近い「アパートメンツタワー勝どき」に和洋室2部屋と共用室を備えた130m²のハウスを設け、無償で提供しています。



2家族がゆったり過ごせる共用室

*認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)とは、団体への寄付を促す税制上の優遇措置を受けられる団体。認証制度によるNPO法人は申請のみで設立可能ですが、認定を受けるには一定の活動期間と所轄庁による調査に合格する必要があります。